



地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



よりよい医療のかかり方

平鹿総合病院 事務長 佐々木 新

我々、秋田県厚生連の事務職員は、いくつかの厚生連病院に転勤勤務し、いくつかの事務課業務を行います。私も10年ほど前に、他病院で地域連携室業務を担当しておりました。当時、「主治医2人制」のお話を地元住民の皆様にご理解いただけるよう、市の会議、町内会のイベント、老人クラブ主宰の講演会にお邪魔しました。連携室室長の医師と2人で2年ほど市内を廻り、「機能分化による勤務医の負担軽減が医療の質につながる」「医師確保に繋がる」旨をソフトに説明させていただきましたが、正直、十分に納得いただけたようには思えませんでした。

今、「医師の働き方改革」が大きな問題となっております。勤務医の長時間労働改善が目的とされておりますが、そもそもの医師不足、診療科偏在に併せ、救急等の地域医療確保をどのように両立できるのか。当院のような救急医療を担う医療機関が最も苦しい立場に追い込まれようとしているように感じます。

労働時間の短縮方法だけに焦点を当てられておりますが、医師の働き方改革実現には、「よりよい医療機関のかかり方」について患者、住民の理解と協力が重要と思います。今後も、色々な機会を利用し、地域住民の方に理解していただけるような活動も進めてまいりますので、ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

もくじ

よりよい医療のかかり方.....	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介.....	②
当院の診療科部門のご紹介.....	③
インフォメーション.....	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介



井田内科胃腸科医院
院長

井田 隆夫

かかりつけ医

平鹿総合病院は交通事故など救急患者を受け入れる救急センターのある急性期対応型の総合病院として横手市医療圏の中核を担っています。一方個人のクリニック・医院はカゼなど一般的な軽症初期患者や安定した慢性疾患の方を対象としており医療分担がなされています。ただし精密検査が必要となれば総合病院へ紹介し、逆に総合病院に入院し症状が安定すれば患者さんの身近な個人医院へ逆紹介して以後の通院加療を依頼されます。このような総合病院と各クリニック・医院間の迅速な医療情報伝達を行っているのが『地域医療連携室』です。総合病院へ初めて受診する際にはクリニック・医院からの紹介状を『医療連携室』を通して申し込むと受診日時の予約も可能です。そのためにも『かかりつけ医』を持つことをお勧めします。何でも相談でき必要な時には専門の病院を紹介してくれる身近な医師のことを『かかりつけ医』と呼んでいます。『かかりつけ医』として患者さんに親身に寄り添うことで、その患者さんにとってふさわしい治療が行い易くなりますし、また『かかりつけ医』を持っている患者さんの方が病気の早期発見につながり易いとも言われています。

ぜひ『かかりつけ医』をお持ち下さい。



訪問看護ステーションあじさい
管理者 看護師

新田 智子

応援します！在宅看護

こんにちは、訪問看護ステーションあじさいです。地域連携室の皆様には、入院生活からスムーズな在宅生活の移行にあたり、要の存在であり、日頃より大変お世話になっております。入院中の担当者会議・退院時共同指導では、顔の見える話しやすい関係づくり、本人とご家族様の想い、情報共有、多職種それぞれの専門的立場からの意見、検討課題に一同に向き合って話し合える貴重な場を開催して頂き感謝しております。

当事業所は、平成28年4月からスタートし今年で4年目を迎えます。看護師4名、作業療法士2名、事務員1名の職員7名体制です。小児から高齢者まで幅広い年代の方が利用しています。在宅看護の内容は、予防的ケアから健康の維持、回復を目指すリハビリテーション、日常の排泄、清潔ケア、心のケア、安らかな死に至る終末期ケアまで、幅広い健康レベルの方がいらっしゃいます。利用者様と介護者様から「ありがとう」「お疲れ様」と感謝やねぎらいの言葉をいただく度に、こちらこそ温かく迎え入れていただき、ありがとうございます！と感謝の気持ちで一杯になります。そして24時間体制で電話相談や訪問をしていて感じることは、チームで利用者様と御家族様を支えられていることを実感でき私達の在宅支援への活力となっています。今後も、地域の皆様が安心して在宅や住み慣れた地域で暮らすことの支援者として、職員一同頑張っ参ります。今後ご指導、ご協力をよろしくお願い致します。



当院の診療科部門のご紹介



平鹿総合病院 薬剤科
薬剤長

小松田 徹

薬剤師は、薬の番人であれ

平成30年4月に大曲厚生医療センターから当院薬剤科に転勤してきました小松田徹です。早いもので1年がたとうとしています。大曲と比べて大きい病院で、まだまだ慣れないのですが、スタッフや周りの職員の方々に支えられてどうにか日々過ごしています。とは言ってもまだ病院の中で迷子になりそうなきががあります。

当院の薬剤科は「薬剤師は、薬の番人であれ」を理念・目標として、平成31年3月現在で、薬剤師12名、助手2名の体制で業務を行っています。

現在の薬剤師の業務は従来の調剤業務だけではなく、注射薬調剤業務、抗がん剤調剤業務、高カロリー輸液調製業務、院内製剤業務、服薬指導業務、医薬品情報管理業務、薬品管理・供給業務等多岐にわたっています。また、緩和ケアチーム、糖尿病教室、栄養サポートチーム(NST)、感染制御チーム(ICT)、

医療安全対策などチーム医療に貢献しています。

各病棟においても専任薬剤師を配置し、医師への処方提案や他スタッフの相談応需、入院患者さんの薬の説明や副作用モニタリング等を行っています。入院中お薬に関することはお気軽にご相談ください。今後は、入院のみならず退院後においても安心して日々を過ごすことができるように、他職種の方だけでなく、保険調剤薬局、他医療機関、他施設との連携がとれるような体制を考えていきたいと思ひます。

今後も、ますます高齢化する地域医療に幅広く貢献できるように努めてまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。



平鹿総合病院
リハビリテーション科
理学療法士
心臓リハビリテーション指導士

佐藤 健一

心疾患があっても元気に地域で暮らす

現在、心疾患による死亡率は悪性疾患に次いで第2位であり高齢化に伴い増加傾向にあります。このような背景を受け当院でも心臓リハビリテーション(以下、心臓リハビリ)が平成21年に開始され、今年で10年目となりました。現在は医師2名、専従看護師1名、理学療法士2名で活動しています。

心臓リハビリは主に心筋梗塞や心不全などで入院された方が急性期の治療後や手術された後に行われます。専門スタッフの管理のもと身体の状態を細かくチェックしながら安全に運動していきます。また心臓リハビリでは身体機能の改善だけでなく心疾患の再発予防、二次予防のために生活指導なども行い、再発・再

入院の予防に力を入れております。

最近の傾向として心筋梗塞よりも高齢の心不全の患者さんが増えてきています。高齢の心不全の方の再発予防のためには退院後の疾病管理が重要となり、サポートが必要となってきます。今後も心疾患があっても元気に地域で生活できるように多職種と連携を図りながら患者さんをサポートしていきたいと思ひます。



インフォメーション



日頃より、当院へご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
患者さんのご紹介や退院後の在宅療養等に関するご相談、医療費や
がん診療等に関するご相談は、下記までお気軽にお問い合わせください。

紹介患者診療予約の申し込み …… 地域医療連携室

TEL 0182-45-6012(連携室直通)

FAX 0182-32-0698(連携室専用)

※外来診療申込書と診療情報提供書をFAXにてお送りください。

救急搬送の依頼 …… 希望する診療科の当番医へお電話ください。

TEL 0182-32-5121(代表)

FAX 0182-32-0649(救急搬送対応)

※急性心筋梗塞や急性冠症候群が疑われる場合

緊急心カテホットライン PHS 070-6498-5960

入院患者さんの退院支援に関する相談 …… 入退院支援センター

TEL 0182-32-5121(内線4161)

FAX 0182-32-0634(医事企画課)

※ケアマネージャーの入院時情報提供書は、
上記のFAX番号へお送りください。

医療費や生活・入院上の心配事、がんの治療や不安等に関する相談

…… 医療福祉相談室

TEL 0182-32-5121(内線2145)

FAX 0182-33-3200(代表)

地域医療連携室スタッフ

室長	高橋	俊明
副室長	榎本	好恭
事務次長 (医事企画課)	橘	善幸
看護師長	大日向	久美子
看護主任	大沢	知佳
事務	中嶋	秋子

病院住所／〒013-8610 横手市前郷字ハツ口3番1
TEL／0182-32-5121(代) FAX／0182-33-3200

[地域医療連携室連絡先]

●地域医療連携室

TEL：0182-45-6012／FAX：0182-32-0698

●HP：<http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>